

○「余暇の充実」に係る主な意見

| No. | 意見内容 | 発言者 | 区分 | 発言部会 |
|-----|--|----------|----|------|
| 1 | <u>女性の方が下がっていて、70歳以上の方が下がっていて、あるいは60歳以上の無職の方が下がっていてという、何かこれはお金がないとか、コロナで外に出られないとか、そういうことなのかなと思って見ていると、例えば資料6見ると一番に出てくる理由が自由な時間の確保なのです。これ資料5で見る余暇の充実で下がっている属性の人たちというのは、そんなに時間に不自由するような人たちではないよなというのが直感的なイメージなのです。それが何で自由の時間の確保というのが一番の理由に出てくるのかというのがちょっと直感的には分かりにくいかなと。</u> | 谷藤委員 | 意見 | 第1回 |
| 2 | いかにも高齢の人たちが属性としては出てきているのですけれども、例えば資料6―2の「余暇の充実」のところの属性別の数字見ていると、 <u>女性は確かに自由な時間の確保というのはあまり感じない方で1番に出てくるけれども、あと70歳以上とか60歳以上の無職とかという部分の人たちというのは、特にネガティブな項目の方の指標としては出てきていない。</u> どう考えたらいいのか、ちょっと難しいなと。だから、並べてみるとこのとおり、分析の手順として並べてみるとこのとおりなるのだけれども、 <u>これだけ見て高齢者の人たちの自由な時間の確保に難儀しているのという、こういうことではないよねとなってくる。</u> 実はこれを見たとき私が想像したのは、高齢の方々が介護が必要なほど弱ってきて、そもそも時間の確保ができなくなったのかなと。だから、逆に言うと1日の行動時間の低下とどこかで出ていましたよね。あれで介護が急に増えているというのは確かにあったのです。6時間だったのが30時間に増えていたのかな。だから、そういうことなのかなと思うけれども、この属性別の分析を見るとそうでもないよなということになってきて、今私の頭の中は非常にカオス状態です。何か合成の誤謬ではないけれども、ちょっとこれミスリードしかねないですね、このままにしておくと。 | 谷藤委員 | 意見 | |
| 3 | 場合によると、おっしゃるとおり補足調査結果からの推測は、これは全般的なところを載せているので、これが理由かなというふうに思うのですけれども、実は左側の属性分析を見れば女性であり、70歳以上だということで、そこが特に実感が低下した属性だというふうに特定しているのであれば、その理由として推測されるものをこっち側に書いていかないといけないのでしょうね、多分ね。ですから、 <u>それが全体ではないのだけれども、どこにターゲットを当てていくかというところをどこかで絞り込んで、その理由は何なのかというのをどんどん寄せていくというのも一つの手法なのかもしれない</u> と思います。 | 小野政策企画部長 | 意見 | |
| 4 | 何となくですけれども、資料の5―2の「余暇は充実していますか」というのを眺めてみると、その前は隔年で上がった、下がったりして、この基準年以降はずっと下がっている。70歳以上の皆さん、どうなのでしょうね。余暇が充実すれば、 <u>ほとんどの時間が余暇なので、充実していますかと言われたら、多分答えにくいのではないかな、充実しているかという、何しているんだらうねという感じになるのではないかな。</u> | Tee委員 | 意見 | |
| 5 | ここは、 <u>暇ですかと聞いているわけではなくて、充実していますかと聞いているので、要因とすれば時間と質の2つが入ってくる</u> のだろうなと。 そういった意味で、 <u>時間は時間で測れるけれども、</u> では今まで集会に1週間毎日行っていたのが行けなくなった、時間は残っているけれども。それは多分充実が上がるというのはなかなか感覚的に難しいが、下がることは比較的明確に見えてくる、特にコロナの関係なんかです。というので出てきて、 <u>高齢者なんかはなかなか今まで行っていた博物館に行けなくなったとか、与太話がでなくなかったという可能性はあるのかなというふうに感じている。</u> | 和川委員 | 意見 | |

| | | | | |
|----|--|-------|----|-----|
| 6 | <u>私もコロナかなと思ったのですが、実はコロナ前のほうが下がっていて、結局だからコロナじゃないよと内心思っていて、何だろうなと。</u> | Tee委員 | 意見 | 第1回 |
| 7 | 70歳以上は平成28年は高くて、50歳から59歳が低いとか、それは何となく時間がないのだろうなという気がしますけれども。 | 吉野部会長 | 意見 | |
| 8 | <p>実はこの余暇のところが一番解釈が難しいところかなと思っており、余暇という言葉自体が、私の記憶では社会史的にはというか、勤務時間が決まっているようになってから生まれた言葉というか、そういうふうには私は何かで読んだ気がしており、どう解釈するかが実は一番難しいのではないかなと思っている単語である。</p> <p>5－2の資料で年代別で見ると、総体的には70歳以上の方はご自身と比較的時間が使いやすいはずで、そのトレンドは多分あまり変わらないと思うが、でもかといって、先ほど皆さんおっしゃったように少なくとも平成31年はかなり高く出ているので、何でこれ高いのかなとちょっとよく分からないのですが、全体が高い。そこからまた下がってくるといったところで、私も皆さんおっしゃるようにコロナかなというのはあるのですが、と同時にやはり家事ですとか日頃の生活にかかる時間と分けにくいというのはあるかなとは思っているの、それがどう余暇と余暇でないところと区別されるかというのはちょっと難しいなと。</p> <p>その意味では、先ほど和川委員さんもおっしゃった、場合によっては行動の時間のところとのクロスで見るという方法もあるかなとは思う。つまり、もし70歳以上をすごく細かくやろうと思えばですけど、場合によってはもしここをかなり厳密に見ていこうとすれば、<u>70歳以上の方の行動時間というのがどういふふうに変化したかなというのを見ると、見せていただくというのはあるのかもしれませんが。どこまでやるか次第</u>です。</p> | 山田委員 | 意見 | |
| 9 | <p>これ実数は響かないのかというのが、<u>それぞれの要件でクロスが大分深くなっている</u>ので、「余暇の充実」のところの項目まで今、自由な時間の確保とか、それからスポーツができるかと、その項目のところまで今検討のために、参考のために話が進んでいるのですが、そこまでいってしまうと全体が1,000を超えているとはいえ、クロス表の一つずつのセルの中の人数がうんと減っていくこと自体の影響は出ないのかと思って、今お話をお聞きしながら参考資料の方を見ていたのですが、たどり着けないので、こここのところについては<u>統計上のセルの中が例えば1桁になっちゃってしまったりすると、統計上のみたいな言い方で処理がもうできないのだろうななんていうふうに思って、ちょっとそれだけ気にしていました</u>。解釈自体は、遠くにいと想像も実は遠くなってきたうまいかなさそうな気がして、皆さんたちにお聞きしたい。</p> | 竹村委員 | 意見 | |
| 10 | <u>年代もそうですけれども、実際は60歳の無職の方が職業ある人よりも余暇の感じ方がいいということもあって、確かに下がってはきているけれども、流れもいい方だなという、そういう評価しては駄目なのですから。</u> | Tee委員 | 意見 | |
| 11 | <p>なかなか余暇の概念というものの捉え方とか、山田委員からあるようにどういふふうには人は見ているか、丸がつく数字が違うかもしれないし、持ち時間だけでも見られないですし、<u>アクティブなのか、ノンアクティブで見えている方がいいのかとか、いろいろ見方が多くてこれは宿題</u>にして、もう少し後で考える。</p> | 吉野部会長 | 検討 | |